

被害者の証言

宋神道(ソン・シンド)さん

(2008年11月30日 京田辺市
で宋神道さんのドキュメンタリ
ー映画『オシの心は負けてな
い』(2007年制作)を上映)



朝鮮半島出身。騙されて中国の慰安所に連れていかれる。戦後、日本兵に騙され日本に渡って来る。以来、ずっと日本暮らし。「騙されて慰安所に連れて行かのは、16歳のときです泣いて泣いて、そっち逃げたり、こっち逃げたり、隠れていたら捕まって、髪結び付けて殴ったり、足で蹴ったり／軍人の言うとおりにしなければ帳場に殴られる。軍人には刀で脅される。命が惜しくて、死ぬのだけはいやでした。だから、軍人の言うことを聞くしかなかったんです／あんな地獄のような慰安所で死んで、ただ穴掘って埋めるだけです。死んでも国に帰ることもできない朝鮮のおなごたちは本当にかわいそうでした。けれど、生き残った方が幸せだったのか、戦地で死んだほうがよかったのか。戦争が終わって日本に来てから、海に入って死のうと思ったことが一度や二度じゃありません／あんな残酷な戦争は、二度と繰り返してはいかんです。」

【請願署名 呼びかけ人】

京田辺市議会への請願署名に 協力をお願いします

日本軍「慰安婦」問題について
日本政府へ早期解決を
求めましょう！

日本軍「慰安婦」問題の早期解決を求める
請願署名実行委員会

請 願 内 容

日本政府は戦後63年たった今も、日本軍「慰安婦」問題を解決していません。そのため世界各国から、日本政府が一刻も早く誠実な対応をすようにとの決議が相次いでいます。今、日本政府の対応を、世界が注目しています。

2007年7月30日アメリカ下院での決議をはじめ、同年11月8日オランダ下院、28日カナダ下院、12月13日EU議会、2008年10月8日韓国議会、11月5日台湾立法院において、日本政府の問題に対する公式承認と謝罪、被害者への補償、歴史教科書への記述などを求める決議が採択されました。国連人権委員会でも2008年6月、日本政府に謝罪を求める文書が採択されました。

しかしながら日本政府は、こうした世界の動きに背を向けて、公式な謝罪や補償をせず、真相究明や責任者の処罰も行わず、日本軍「慰安婦」問題を無かったことにしようとする態度をとっています。

日本政府のこの対応は、1993年、河野洋平官房長官(当時)が「お詫びと反省の気持ちを上げる」という「談話」を発表したこととも、矛盾する態度です。日本政府は、一度は問題を全面的に認めたのに、誠実な対応をしなければ、その後、歴史教科書からこの問題の記述を消してしまいました。さらに歴史を歪曲する一部の国会議員から、国の責任を否定する発言や、「お金をもらっていたのだから商行為だ」などの発言が繰り返され、被害女性たちの名誉と尊厳が、何度も傷つけられました。このため世界中で、日本政府に対する、誠実な謝罪と補償を求める決議が相次いでいるのです。

とくに被害女性達は今、80歳、90歳の高齢になっています。たくさんの方がすでに亡くなっています。そのため一日も早い解決が求められています。

地域から声をあげて、政府を動かしていくために、京田辺市議会として、日本政府に対し、以下の内容を含む意見書を提出していただくようお願いします。

1. 日本軍「慰安婦」被害者に対して公式に謝罪し、国家として補償すること。
2. 日本軍「慰安婦」問題の真相究明をおこなうこと。
3. 日本軍「慰安婦」問題を、歴史教科書に記載し教えること。

日本軍慰安婦問題とは……

日本がかつて侵略したアジア太平洋地域で、アジアの多くの女性たちが、日本軍が設置した「慰安所」などに連れていかれ、性暴力を受けた問題です。女性たちは日本軍の管理下に置かれ、逃げることもできず、抵抗して殺された女性たちもたくさんいました。生き残った女性たちは戦後も置き去りにされたり、故郷に帰れなかった人もたくさんいました。

彼女たちの存在は長い間隠されてきました。問題が公然と語られるようになったのは、1991年です。戦後50年の長い沈黙を破って、韓国の金学順さんが名乗り出、語り始めました。それ以降、アジア各地から被害女性たちが名乗り出、立ち上がりました。被害女性たちの人間の尊厳を求めた声に突き動かされました。1993年日本政府は河野洋平内閣官房長官談話を発表しました。

この「河野談話」は、慰安所の設置や管理、「慰安婦」の移送について軍の関与や強制性を認め、「お詫びと反省の気持ち」を表しています。さらに「我々はこのような歴史の真実を回避することなく、むしろこれを歴史の教訓として直視し」、「このような問題を永く記憶にとどめ、同じ過ちを決して繰り返さない」という決意を表明しています。

しかし日本はこの決意を忘れ、政府の責任を否定する声を立ちません。